

☐ 理事会・通常総会を開催しました

6月2日に平成26年度第1回理事会及び通常総会を開催しました。(於：日比谷図書文化館(東京千代田区))

当日は、運営会員、賛助会員及び特別会員や関係者の皆様にお集まりいただき、総会での審議事項は、すべて原案どおり承認されました。

なお、6月30日の任期満了に伴い、次のとおり理事の異動がありました。

●理事の退任

飯田 聡氏(株クボタ)、捧 賢一氏(株コメリ)、佐野 泰三氏(カゴメ株)、米谷 雅之氏(株みずほ銀行)、渡辺 喜代司氏(アグリビジネス・ソリューションズ株)の5名

●理事の選任(新任)

北尾 裕一氏(株クボタ)、捧 雄一郎(株コメリ)、島田 哲宏氏(アグリビジネス・ソリューションズ株)、藤井 啓吾氏(カゴメ株)、星 正幸氏(株みずほ銀行)の5名
その他の理事は重任されました。

また、総会後には会員約60名が参加し、懇親会を開催しました。様々な情報交換が終始和やかな雰囲気の中、行われていました。



理事会の様子



総会の様子



懇親会の様子

☐ 専門部会の動き(5月分)

毎月開催している J-PAO の企画運営委員会が日比谷図書文化館で開催されました。

委員会終了後には、専門部会(テーマ別の小集団)を開催し、今年度の専門部会で取り扱うテーマについて4つのグループで意見交換を行いました。

こうした議論と J-PAO に対する相談内容や事業内容の変化を踏まえ、平成26年度5月より、専門部会の検討テーマを変更しました。

【人材育成】

部会テーマ：マネジメントスキル向上

以下の部会での検討事項に関する課題や実施計画について討議を行いました。

- ・トップマネジメントセミナー企画
- ・トッププロの育成
- ・ビジネススクール(栃木、宮崎他)
- ・研修農場
- ・経営継承(第三者への)に関する検討

次回は、トッププロの育成(企業派遣型ワークショップ研修の実施検討)と、とちぎビジネススクールの来年度事業の実施内容提案について検討を行います。

【事業化支援・販売支援①】

部会テーマ：震災復興、コスト削減

震災復興については、今年の南相馬農業復興プロジェクトの進捗状況と、タマネギの試験栽培の現状報告を行いました。

コスト削減については、農機コスト削減に関して意見交換を行い、今年度はまずは水稻をテーマに現状認識を行い、検討していくこととしました。

【事業化支援・販売支援②】

部会テーマ：販売戦略、販売サポート、6次産業化

今年度は、検討品目やエリアが集中しないよう案件を選定し、戦略特区や、輸出も視野に入れつつ検討を行っていきます。

案件毎の検討は1~2回とし、必要に応じて部会メンバーによる現地視察や相談者自身の専門部会への参加等も検討し、課題解決に近づきよう討議を行います。

【事業化支援・販売支援③】

部会テーマ：農業ビジネスモデルの構築

今年度当部会が取扱いを想定している以下のテーマについて、今後の検討の進め方を確認しました。

- (1) 経営全般に関する支援
- (2) 新規就農・農外参入支援
- (3) 経営改善計画の策定
- (4) 研修農場の活用促進策の検討
- (5) 福島県アドバイザー派遣事業

また、現在相談中の候補案件概要について事務局から説明し、次回以降討議を進めていくこととしました。

□ J-PAO 白書を公表

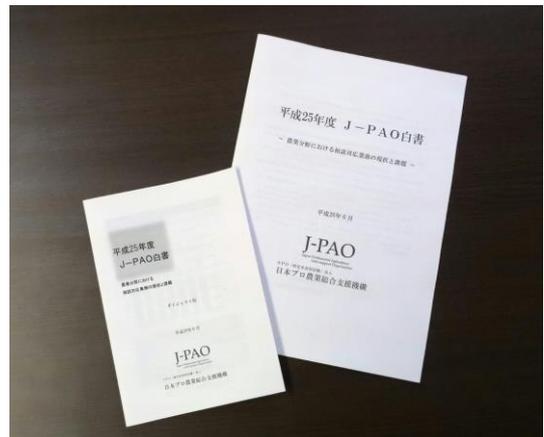
J-PAO は、6月2日に開催された通常総会の席上で、「平成25年度 J-PAO 白書」を公表しました。

平成22年6月の初回発行から数えて、5回目の発刊となり、J-PAO の相談対応業務の現状と課題について、平成25年度の活動を中心に分析し取りまとめました。

J-PAO は「プロ農業者」の課題解決に向けて、実践・試行の中から知恵を出し合い、総合的な支援を継続してまいります。この冊子を手にとられた方からの忌憚のないご意見、ご感想をお待ちしています。

また、今回より概要を記したダイジェスト版を発行しました。

*平成25年度 J-PAO 白書（ダイジェスト版含む）を公開しています。J-PAO ホームページのバナーをクリック下さい。



□ 主な活動(5/10~6/16)

- 5/13 南相馬市農業者向け講演会（豊田）
- 5/14 第81回企画運営委員会
- 5/17 荘内銀行ビジネスカレッジ（伊藤）
- 6/2 平成26年度第1回理事会、通常総会
- 6/3 東三河の農業を考える会（高木理事長）
- 6/10 被災地域農業法人等復興促進事業（伊藤）
- 6/12 第82回企画運営委員会
- 6/16 被災地域農業法人等復興促進事業（高田）

往復書簡

今回からは、木須栄作氏（佐賀県、フェルマ木須）と当機構理事長の高木勇樹との往復書簡が始まります。

拝啓 高木 勇樹様

風薫る五月、佐賀ではちらほら田植えが始まっている時期ですがいかがお過ごしですか？

私どもはこれから始まる麦の収穫、田植えに向けての準備の真最中です。今回「農業」について少し立ち止まって考える機会を頂いたことに感謝しております。

私は就農して以来今年で十四回目の春を迎えます。今まで一三回の稲と麦を育て収穫したわけですが、なかなか思うようにいかなかったことも多いです。それ以上に楽しくて仕方がないというのが感想です。

私達フェルマは農業を未来に繋いでいく、ということを考えてながら日々の営農を行っております。その中の方法の一つとしてお米の契約販売や加工等に取り組んでおります。

近年特に、六次産業化という言葉をよく耳にしますが、私達農業者が地域の「住民」として、どこまでがやるべきことなのかと考える時があります。

私は農業が特別な職業ではなく、世の中の人々が生きていく為には必要な職業の一つであると思っております。そしてご縁を頂きこの職業をさせて頂いていると考えます。それ故に一度覚悟し、決断したからには、自ら誇りと責任を持ち、価値を見出し生業とするためにも日々一所懸命に研鑽します。

そして、それを活かして私たちが生活している現在に合ったやり方で、世の中から必要とされる農業の形にしてい

なければならぬと思います。そうすることこそが、今後農業経営をしていく上で、必要だと感じます。

また、現状では土地利用型の農業を新規では、やりたくても資金面や様々な問題で容易ではないと思います。今後国民の食料を確保するという意味でも、やる気のある人には始められるようなシステムになれば、もっと面白い魅力的な農業になっていくのではないかと思います。

梅雨入りも間近でございます。体調を崩されませぬよう、ご健康を心よりお祈り申し上げます。

敬具

平成二十六年五月吉日

木須 栄作（きす えいさく）

一九八〇年 佐賀県伊万里市生まれ

二〇一三年 秋田県立農業短期大学卒業

卒業後 佐賀県の農業法人にて一年間研修

二〇一四年 実家（フェルマ木須）に就農



後列中央が筆者

拜復 木須 栄作 様

日増しに樹木の緑が濃さを増し、葉風の心地良いきよこの頃ですが、農業者にとつては正にかき入れ時の忙しき到来と思ひます。

苦しいことと言われているのは、農業の難しさ特に原則一年一作の稲麦は年一回しか経験出来ない上、毎年気象をはじめ生育条件が異なるわけで、同じものづくりでも工場生産による製造業とは違う点だと思ひます。

楽しくて仕方がないと言われているのは、日々農業を未来に繋いでいくことを考えながら営農している点ではないかと思ひます。

以前申し上げたことがあるのですが、半世紀前私たちの就職先選びの中には農業はなく、代々農家の方がやるものだと観念していました。

農業・農村をめぐる内外の諸情勢の変化の中で、貴兄が言われるように「農業は人々が生きていくために必要な職業のひとつ」という見方が定着していることを、私もここ二、三十年の間にお会いした農業経営者の方とおつきあひの中で実感していました。

私のお会いした農業経営者の方々に共通していたのは需要に則したもののづくり、そしていかに自らに利益をとり入れるかの経営をされているということのように思ひます。

六次産業化はことさら言うことではなく、フェルマ木須が行っている契約販売や加工等のように、農業を産業として持続する経営をされようとしている方が当然行っていること、

それが世の中から需められていくこと―それが六次産業化の本質だと思ひます。

御社がされているように土地利用型農業が国民に必要とされているものであれば、やる気のある人が始められるシステムは必ず確立していくと思ひます。

私の経験によれば、制度、政策（システム）は国民が需めることを現場で実践することによって確実に変わります。この点につき次回貴兄のコメントを頂ければと思ひます。

健康と農作業の安全第一で頑張ってください。

敬具

平成二十六年六月吉日

高木 勇樹（たかぎ ゆうき）

一九四三年 群馬県生まれ

一九六六年 東京大学法学部卒後農林省入省。食品流通局砂糖

類課長、大臣官房企画室長などを経て、食糧庁管理部長、畜産局長、大臣官房長、食糧庁長官など

歴任。

一九九八年 農林水産事務次官、二〇〇一年退官

二〇〇二年 ㈱農林中金総合研究所理事長

二〇〇三年 農林漁業金融公庫総裁、二〇〇八年同公庫退任

二〇〇七年 NPO法人日本プロ農業総合支援機構副理事長

現在、NPO法人日本プロ農業総合支援機構理事長などの立場から、わが国農業・農村の活性化、食の問題の解決に向けた活動に尽力。



会員紹介

J-PAO 会員を紹介するコーナーが始まりました。
会員の方々を順次ご紹介させていただきますので、
ご協力のほどよろしくお願いいたします。

株式会社あつぷふあーむソリューションズ

〒150-0034 東京都渋谷区代官山町 2-6 シャトレ代官山アネックス 304

TEL : 03-3770-7351 FAX : 03-3770-7352 URL : <http://www.maifudo.com/>

事業内容: 農産物企画及び販売

(株)あつぷふあーむソリューションズの販売する新たなお米ブランド「米風土(まいふうど)」。毎年行われる国内最大規模のお米のコンクール「米・食味分析鑑定コンクール:国際大会」に、個々の農家が出品し得た評価を価値として販売する米風土のお米には、お客様に産地・品種、そして「食味値」という味を数値化したコンクールでの点数をつけて販売しております。商品ラインナップは、その日だけのプチ贅沢な食べ切りサイズ 300g(約 2 合)。日頃食べて頂くお米は、1.8 kg や 2 kg。これまでコンクールで高い評価を受けてもその価値で販売することが難しい農家自身の現状。私共は、個々の農家の強みを商品化することで、日本の宝である高品質のお米、産地を守っていきたくております。

今後は J-PAO 会員として、弊社の強みである企画力・デザイン力、販売力を生かし、お米だけに捉われず、強い農業を入口から出口まで作り貢献していきたくて考えております。



アグリビジネス投資育成株式会社

代表者: 北原 克彦 (取締役代表執行役)

〒101-0047 東京都千代田区内神田 1-1-12 コープビル 3 階

TEL: 03-5283-6688(代) URL: <http://www.agri-invest.co.jp/>

E-mail: j-jimbo@agri-invest.co.jp h-itoo@agri-invest.co.jp 担当者: 神保 淳一、伊藤 宏

事業内容: 農業法人に対する出資業務

当社は、これからの農業をリードする法人経営をサポートする機関として JA グループと日本政策金融公庫の出資により平成 14 年 10 月に設立された、「農業生産法人」等への出資が認められている投資会社です。自然と生物を相手とする農業を支える投資機関として、「対外信用力の向上」「経営権ならびに財務の安定化」「円滑な事業承継」等、様々な点で農業者のサポートに取り組んでいます。

日本プロ農業総合支援機構の会員となる事で他の会員様との連携を図り、より一層、日本農業発展にお役に立てるよう注力する所存です。今後とも皆様方のご指導とご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

なお、出資手続き等の詳細は、当社のホームページをご参照ください。